

農推第1149-11号
令和2年2月14日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（2月）

大阪府内の2月前半の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
気象台の1ヶ月予報によると、気温は高いと予想されており、「たまねぎべと病」などの感染好適条件になりやすくなっています。

また、施設では内外の温度差が大きく、農作業中に体調を崩しやすいので御注意ください。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎「病害虫防除グループホームページ」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

目次

1 水稻	P.1
2 果樹(ぶどう(加温栽培)、バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属))	P.1~2
3 野菜(トマト・ミニトマト、なす、たまねぎ、あぶらな科野菜)	P.3~5

次回の情報は3月中旬頃にお知らせします。

2020年農林業センサスが実施されます

農林水産省・大阪府・市区町村では、令和2年2月1日現在で、「2020年農林業センサス」を実施します。

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。
また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



水稲

前年発生した病害虫を次作に持ち越さないように防除しましょう！

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）



成貝

特徴

- ◆食害が激しいのは田植え後約20日間までで、成長して硬くなったイネは食害しない。
- ◆府内において、年々発生地域が拡大している。

防除のポイント

- ◆刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

果樹

ぶどう（加温栽培）

灰色かび病



特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆孢子（分生孢子）が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルでマルチングをする。
- ◆開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、ネクスターフロアブルなどを散布する。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ



特徴

- ◆成虫は体長4cm程度。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から10月頃に中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。
- ◆フラスが発生している穴には幼虫がいる可能性が高い。

防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

伐採後の切株について



野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。
- ◆例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

処分に伴う運搬について

- ◆特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。詳細は下記の技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」のP10「2. クビアカツヤカミキリの運搬および保管について」を参照してください。

詳しい防除方法は技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参照して下さい。

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii\(H3104\).pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii(H3104).pdf)

野菜

2月の病害虫発生状況

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
トマト・ミニトマト (施設栽培)			コナジラミ類		
なす		アザミウマ類			
たまねぎ	べと病 越年り病株の発生に注意				

トマト・ミニトマト(施設栽培)

コナジラミ類



トマト黄化葉巻病発症株

特徴

- ◆ 吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

防除のポイント

- ◆ トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、媒介するコナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除草を徹底する。
- ◆ グレースシア乳剤、ベネビアODなどを散布する。

なす

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、ディアナSC、アフーム乳剤、モベントフロアブルなどを散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

たまねぎ

べと病



越年り病株

特徴

- ◆11～12月に苗床・定植後のほ場で、作物残さなどから感染する。翌年1～2月に越年り病株として病徴を現し、二次感染の発生源になる。

防除のポイント

- ◆越年り病株は感染源となるので、抜き取る。抜き取った株は肥料袋などに集め、ほ場外へ持ち出した上で、適切に処分する。

詳細は2月13日発表の防除情報

「たまねぎ べと病注意！」参照

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/R202tamanegi%20beto.pdf>

白色疫病



特徴

- ◆2～3月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆発生が見込まれる時期に、予防散布として、ランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。
- ◆発生を認めたら、ザンプロDMフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMZなどを散布する。

注意

【べと病・白色疫病】 リドミルゴールドMZ(3回以内)

【べと病・白色疫病】 ジマンダイセン水和剤(5回以内)

【べと病】 ペンコゼブ水和剤(5回以内)

上記薬剤は同一成分マンゼブを含む。マンゼブの総使用回数は5回以内。

あぶらな科野菜（キャベツ、はくさい等）

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

菌核病



特徴

- ◆長雨や、多湿土壌で発生が助長される。

防除のポイント

- ◆菌核が土中に残って感染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との連作を避ける。
- ◆キャベツやはくさいで、発生が予想される場合は、結球開始期からベンレート水和剤、ロブルール水和剤などを予防的に散布する。